

患者と一緒に書き込める「リウマチ医療連携手帳」を利用した病診連携

東京医科大学八王子医療センター リウマチ科
青木 昭子

東京医科大学八王子医療センターは1980年4月八王子市に誘致を受け東京医科大学によって開設された病院です。当初は病床200で、救命救急と循環器が中心でした。設立40年となる2020年は、診療科数34科、許可病床数610床（一般602、感染症8）、三次救命救急センター、地域災害拠点中核病院、日本腎臓移植ネットワーク腎臓移植施設、地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院に指定され、東海大学医学部附属八王子病院とともに「八王子市中核病院」となっています。



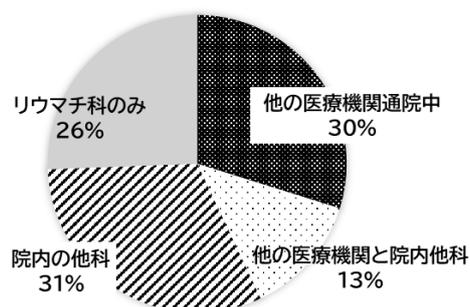
南多摩保健医療圏の西に立地し、八王子との連携が強い当院ですが、町田街道（東京都道47号）や中央自動車道、圏央道を利用して神奈川県（相模原市）、山梨県（上野原市や大月市）から来院する患者さんも多く、行政が定めた医療圏を越えた医療の必要性を実感しています。

リウマチ科は2011年4月に開設され、リウマチ・膠原病疾患の治療を専門としています。6割は関節リウマチの患者さんですが、高血圧や糖尿病、心疾患などを地域の医療機関（かかりつけ医）で治療していることが多く、3カ所、4カ月の医療機関に通院している患者さんもいます。

2019年10月にリウマチ科を受診した患者さん連続258人（男性68人、女性190人、平均年齢65.4歳）に聞き取り調査をしました。リウマチ科だけにかかっている患者さんは26%のみで、74%の患者さんが複数の診療科・医療機関に通院中でした。八王子市内の整形外科診療所、S病院の内科、

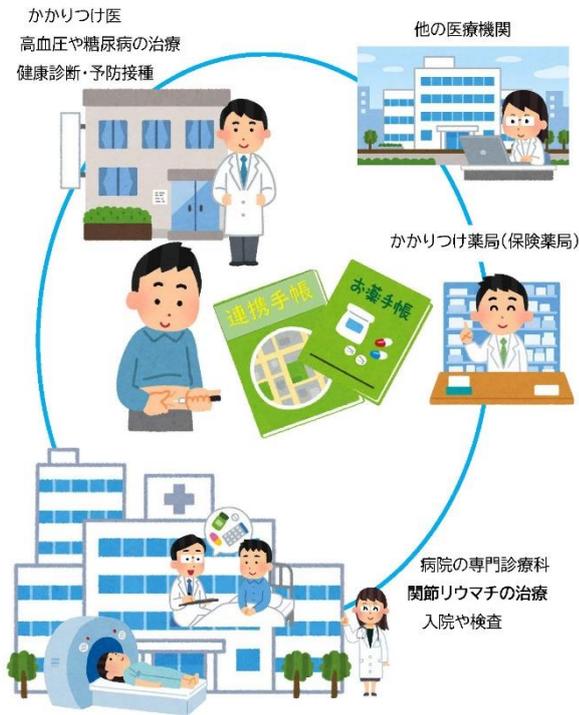
当院の皮膚科と耳鼻咽喉科に通院中の70代男性、市内の内科診療所、H病院の整形外科、T病院の泌尿器科に通院中の70代男性、院内の循環器内科、呼吸器内科、内分泌代謝科、整形外科に通院中の80代女性など、改めて院内の診療科、地域の医療機関との連携の重要性を実感しました。

医療機関が円滑に情報を共有するとともに、患者・家族が病気を理解し、医療スタッフとのコミュ



連携手帳を用いた診療の流れ

医療機関や薬局に、連携手帳をお薬手帳を提示して最新の情報を共有しましょう



手帳に情報を記入して患者さんにお渡しするのは予想した以上に手間がかかり、ようやく 20 人の患者さん (15 の医療機関) にお渡しすることができました。今後も継続するとともに、かかりつけ医の先生にご意見いただきたいと考えています。

フォーラムでは青木が代表して発表しましたが、リウマチ科外来の看護師、クラークの協力、地域連携室スタッフの支援で本取り組みを実施していることを最後に強調したいと思います。